
 学 会 記 事

第 95 回新潟消化器病研究会

日 時 平成 24 年 2 月 25 日 (土)
午後 1 時～6 時
会 場 朱鷺メッセ・新潟コンベンションセンター
2F 中会議室 201

I. 一 般 演 題

1 (投稿せず)

薛 徹・五十嵐健太郎・林 雅博
佐藤 宗広・相場 恒男・米山 靖
和栗 暢生・古川 浩一・杉村 一仁
新潟市民病院消化器内科

2 腸管穿孔で発見された小腸リンパ腫の 3 例

阿部 寛幸・関 慶一・本間 照
長島 藍子・廣瀬 奏恵・窪田 智之
富樫 忠之・石川 達・吉田 俊明
上村 朝輝・橋本 喜文*・関根 和彦*
田邊 匡*・桑原 明史*・武者 信行*
坪野 俊広*・酒井 靖夫*・根本 健夫**
武田 敬子**・石原 法子***
済生会新潟第二病院消化器内科
同 外科*
同 放射線科**
同 病理診断科***

我々は、穿孔を契機に発見された小腸悪性リンパ腫の 3 例を経験したので報告する。

〔症例 1〕80 歳代女性で空腸部分切除施行され、病理では DLBC であり、術後 70 日後現在外来通院中。

〔症例 2〕60 歳代男性で回腸及び横行結腸部分

切除され、病理は DLBC であり術後 110 日現在外来通院中。

〔症例 3〕80 歳代女性で回腸部分切除され、病理は T 細胞性リンパ腫であり、術後 1 ヶ月現在も入院中である。小腸リンパ腫の穿孔例では極めて予後が不良とされており、一年生存率は 26.5 % との報告もあり穿孔を契機に発見された症例については一層予後が不良であることが推察される。医学中雑誌で検索すると穿孔を契機に発見された小腸リンパ腫の報告例は 26 例であり、術後経過追えるが分かる報告でも長期生存例は多くなかった。

本症例では症例 1 及び 2 に関して穿孔を契機に発見され、なお短期予後が良好な症例であった。

3 術前に経過追えた十二指腸乳頭部印環細胞癌の 1 切除例

中村 厚夫・遠藤 新作・八木 一芳
関根 厚雄・田島 陽介*・岡本 春彦*
小野 一之*・田宮 洋一*

県立吉田病院内科
同 外科*

症例は 70 代、女性。2007 年総胆管結石にて内視鏡的治療。2008 年、2009 年は一過性の肝機能異常を認めるも結石は認めず。2011 年 ALP: 1455 と高値にて紹介入院。入院時は GOT: 54 GPT: 44 ALP: 774 CEA・CA19-9 は正常。腹部造影 CT で肝内胆管、胆嚢、総胆管の拡張を認め、乳頭部に造影効果を認めた。EUS では乳頭部に緊満感を認めた。乳頭部の内視鏡像では拡張した異常血管を認め、瘻孔と考えた部位より胆管を造影し IDUS を行った。膵管像は異常を認めなかった。IDUS では下部胆管に片側性の壁肥厚を、乳頭部に近づくると全周性の壁肥厚を認めた。乳頭部の筋層に異常を認めた。乳頭部の生検で印環細胞癌と診断され膵頭十二指腸切除術を行った。十二指腸乳頭部印環細胞癌、非露出腫瘤 40 × 30mm panc1 Du3 ly0 v0 pn0 であった。十二指腸乳頭部印環細胞癌は現在まで 25 例しか報告が無く非常